

岩手教区報

第326号
 立教183年2月1日
 天理教岩手教務支庁
 盛岡市馬場町3番40号
 TEL 019-622-7962
 FAX 019-623-9597



人の子を育てる 学生担当委員長・九戸支部長 権谷 正一

とても大きい声では言えませんが、私は子供が苦手でした。独身の頃は子供を見てもさほど可愛いと思わなかった私が、可愛いという感情を抱くようになったのは、妻の子育ての姿を通してだと思っています。我が子を慈しむ母親の愛情の深さには、残念ながら父親はかきません。ですが、我が子だけでなく、信者さんや地域の子供の育成に心を配ることによって、親御さんにも喜んで貰える。この循環が、親としての私を育ててくれたように思うのです。

7年前、初めて里親として女の子をお預かりしました。家庭の事情から、親の愛情を充分にかけて貰えなかった彼女との生活は、妻にとって毎日が戦いでした。それは彼女に親の愛情を伝えられるか、という究極の戦いです。それまでの子育てが全く通用せず、常に体力、知力、忍耐力をフル回転させねばならないのですから、毎日が非常事態でした。これほどまでに心配し、心をかけてくれる人に出会ったのは、恐らく初めてだったであろう彼女は、少しづつ人を信じることを覚え、勉強も友達と仲良くすることから周囲の人へ目を配れるようになっていき

ました。そして2年後、彼女は我が家を巣立って行きました。天理教教祖伝逸話篇86「大きなたすけ」の中にある「人の子を預かって育ててやる程の大きなたすけはない」との教祖のお言葉に支えられたこの2年間。「あなたがいくつになっても、どんな時でも、私達はあなたの味方だからね」との愛情が、彼女には伝わったと思います。

私はこうした子供たちとの関わりから、親の立場としてたくさん学び、何度も親神様、教祖の親心におすがりしました。実は若年層の育成もこの通りだと思います。親が、いくら自分の子供に時間をかけお金をかけても、思い通りにいかないことはままあります。若い人を育てるのは難しい。だからこそ親だけでなく、みんなで関わっていくべきだと思います。親神様、教祖にお育て頂く理は、勿論我が子も大切だが、人の子もまた大切、ということころにあると思います。

3月には「春の学生おぢばがえり」が開催されます。学生の育成にはこれ以上ない大きな親心こもるおぢばでの行事に、皆様の大切な学生さんを送り出して下さいますようお願い申し上げます。



「愛町の思い出」

昭和34年7月、筆者は天理大学に在学中、ようぼく会(学生の信仰団体)の夏季伝道に参加した。

一行は岐阜、愛知、各県での布教活動を終えて後、当時から既に高名な教会だった愛町分教会の参拝を思い立った。愛町の教会は、初代・関根豊松先生を生き神様として尊崇し、その奇跡的靈教は日に月に目覚ましく、教勢もまた躍如として伸展していた。毎日の朝づとめにも広大な神殿に参拝者が溢れていた。この日、我々は図らずも、初代様に直接御目通りを願った上に、親しく労いを賜り、更に又「身上、事情は道の花やでな、どんな中も喜び、勇んで通りなはれや」との励ましのお言葉まで頂き、心底感動した事である。

お話の後、一同がお礼の参拝をした時の事である。我々の仲間の中の一人、子供の頃、事故で片腕を切断した先輩のNさんは、夏季伝道の直前に義手を取り付けたばかりだった。伝道中は街頭に立ち講演をするなど、人目につくことが多いため、急いで作った義手は時々きしむ音がしたり不具合な状態だった。そこで参拝の時、「ギイ」という音を聞いた関根先生は、間髪を入れずNさんの側に駆け寄り、義手におさづけを取り次いだのである。義手におさづけを取り次いだところで、義手が元の生の腕に再生されるわけでもない。しかし驚いた事に、義手はそのままでも先輩の心が変わったのである。片腕の自分には道一條は通れないという悲観的な思いだったN先輩は大学卒業後、K大教会に伏せ込み、道一條の用にしようとめ切り、84歳を過ぎた高齢の現在も尚、大教会の理事として励まれている。その様子を伺い知る時、若き日の岐路で苦悩した時、N先輩は愛町の初代様のおたすけによって今日の日があると言える。義手という目に見える形のおたすけを通し、義手はそのままでも、その向うに、神様が思し召されるようばくとして

使いたいNさんの使命を見抜かれたであろう愛町・初代様の霊能力には、今更の如く驚嘆するところである。

ユースワークショップ 2020

- 日時 2月8日(土) 18時受付 9日(日) 11時解散
- 場所 教務支庁
- 対象 青年会員、OB (50歳迄)
- 講師 中田祥浩主事
- 申込み 相澤元委員長まで

行事予定

【2月分】

- 1日 主事会 (16時)
- 2日 役員会議 (10時)
- 8日 ユースワークショップ2020 (18時~9日)
- 9日 女子青年例会 (10時)
- 13日 婦人会例会 (10時半)
- 15日 学生担当委員会例会 (19時)
- 16日 道の教職員役員会 (10時)
- 16日 岩手教区小史編集委員会 (10時)
- 29日 祭儀式勉強会 (10時)
- 〃 学生会例会 (18時~3月1日)

立教183年 本年の活動について



婦人会
主任 加藤早苗

天理教婦人会は今年創立110周年を迎えます。創立110周年記念総会へ、そしてその先へと歩みを進めるべく、本年の活動方針が発表されました。

〈成人目標〉

ひながたをたどり

陽気ぐらしの台となりましょう

〈活動方針〉

元をたずね ご恩報じの日々を

一、原典、教祖伝にをやのお心を学びましょう

一、実のようぼくに育ち、育てましょう
百万会員を目指して 一人が二人の会員をご守護頂きましょう

私達にとって大切な基本は何なのかを、もう一度真摯に原典、教祖伝に向き合つて、をやの思いに近づく努力を重ね、ひながたを身近な手本として明るく楽しんで通らせていただきたいと思います。

岩手教区では、昨年4会場で「創立110周年会員決起の集い」を開催し、どの会場も勇んだ会員さんの姿があふれて、喜び心一杯の集いとなりました。今年はその勇みを支部の総会につないで、支部内の会員さんの発掘と活動の活性化、そして楽しく親睦を図って、たすけ合い、学び合いながら、地域の中で「陽気ぐらしの笑顔」を広げることができるよう、お互い成人への道を進みましょう。

女子青年は、仲間と共に女鳴物を学んだり、ひのきしんや楽しい行事も入れながら、親神様の御守護に感謝し、ご恩報じのできる道の若き華を目指します。



青年会
委員長 相澤 元

昨年の青年会総会后、中山大亮青年会長様のもと、新体制で動き

始めました。立教183年の基本方針は引き続き「世界たすけへの挑戦」とし、サブタイトルに「かしもの、かりものの教えを治め、徳分を活かしたおたすけに動き

出そう」となりました。

世界たすけとは、世界中の人々に教祖の御教えを伝え、心をたすけることである。心をたすけていくには、教えを取り次ぐ私たちが、教えの台といわれる「かしもの、かりもの」を心に治めることが欠かせない。更には、かりものの理を心に治める努力こそ、世界たすけの精神を培うための誤りなき道であり、ひいては世界たすけへの原動力となると共に、道の将来の確かな礎になる、とあります。また、活動目標は「千遍聞いて千遍説く」です。年が改まり、様々な新しい取り組みが始まるうとしています。

総会の席上、青年会長様が仰せになった「私たちは未熟でありながら、意気と情熱を持ち合わせた青年であるからこそ、若い時に大いに挑戦し、大いに失敗したら良いと思うのです。失敗して、また挑戦したらい。その繰り返しで自分が強くすると思うのです」との思いを受けて、今年一年、一歩でも成人できるような進んでいきたいと思えます。

皆様方のお力添えをどうぞよろしくお願い申し上げます。



少年会
団長 高橋邦和

本年の年頭幹部会において宮森内統領は、「私たちの信仰の基本

がたにある。人を育てる立場にあり、手本にならねばならない私たちだからこそ、常にひながたを求めてもらいたい」と話されました。

岩手教区団では、お話を受けて、昨年引き続き、少年ひのきしん隊などに参加する「わかぎ(中学生層)」の丹精に努め、また、鼓笛隊活動を啓蒙し、指導者養成や隊員の増加につなげてまいりたいと思えます。

本年の少年会活動方針は、「日々陽気ぐらしを実践し、その喜びを子供たちに伝えよう」です。少年会員への信仰的アプローチはもとより、少年会員の親が信仰の喜びを日々実践して子供達に伝えることができますよう、一手一つに歩ませていただきます。

さらに今年のこともおおげがえりは、期間や内容に変更がありますが、意義を



学生担当委員会
委員長 権谷正一

本年の学生担当委員会の活動方針及び重点項目は左記の通りです。

〈基本方針〉

『誠の心で人材の育成につとめよう』

〈重点活動項目〉

- ・ 学生生徒修養会―学修プラス1―
- ・ 春の学生おぢばがえり

―春学どっと鼓舞―

この冒頭にある「誠の心で」つとめることの大変さを痛感しています。これまで私達担当者は、たとえ学生一人の参加でも、都合をやりくりして行事・活動の準備をし、精一杯信仰の喜びを伝える努力をして参りました。この勤め方に、もう一声、もう一回、もう一工夫をプラスして学修にお誘いし、また、学生達自身のたすけ心を鼓舞できるように、春学の参

加者動員にも励みたいと思えます。

学生層の育成の上に、更なるお力添えをよろしくお願い申し上げます。



祭事部

「祭儀式勉強会」

【2月29日】

祭事部(鈴木眞理部長)は、来る2月29日(土)教務支庁において「祭儀式勉強会」を開催します。

今回は「恒例祭」の開扉、閉扉、献饌、撤饌、祭儀式について学びます。

記

日時 2月29日(土)10時
場所 教務支庁
受講費 千円
持ち物 『おつとめ及び祭儀式』(教会本部発行)、筆記具
服装 ハッピー、白足袋かタビックス
申込み 支部で取りまとめ2月10日迄